都留高ニュース

発行所
山梨県立
都留高等学校
大月市
大月２丁目11-20
編集
都留高新聞同好会

取材・広告
希望の方は
新聞同好会
(木内) まで

今号から紙面をリニューアルしました。

恒例　都留高生・今年の漢字は？

２０２１年も早いもので終わろうとしています。１年次生にとっては中学生から高校生に、２年次生にとっては修学旅行等の行事に、３年次生にとっては進路実現に向けての大切な１年だったと思います。そんな１年を都留高生に漢字１文字で表してもらうと・・。

新聞部員の伊藤花純さんが書いた都留高を表す漢字『新』『工』

皆さんの考える都留高校の今年の漢字は何だったのでしょうか。1、2年生約100人にアンケートを実施しました。

◇1年生（35人）

1位『新』　工事によって体育館が新しくなったり、新しい環境、人と出会ったりしたから。

2位『工』　工事が多くあったから。

3位『忙』　忙しい1年だったから。

◇2年生（65人）

1位『勉』　勉強を頑張ることが都留高らしいから。

2位『課』『耐』『楽』『復』『輝』　課題に追われていたから、コロナに頑張って耐えたから、受験前の最後の1年を楽しんだから、去年よりできることが増えたから（復活）、生徒1人1人が輝いていたから。

◇全体

1位『新』、『工』（5票）

2位『忙』（4票）

3位『勉』（3票）

去年の1年生はコロナウイルス関係の漢字が多かった一方で今年は「新、忙」など高校生活に関係する漢字が多くありました。2年生は来年受験生になるため勉強に力を入れだしたことが表れていると感じました。来年はコロナがさらに落ち着いて、今年よりもさらに楽しい年になってほしいですね。そのためにも再度感染対策を徹底していきましょう！良いお年を…。

今、注目の人
樋口実桜さん

２年次生の樋口実桜さん

第70回山梨県高等学校英語スピーチコンテストで3位入賞を果たした樋口実桜さんにスピーチコンテストの感想や普段の勉強法などお話を伺って来ました。

まず最初にスピーチコンテストの感想を聞いてきました。

「半年と言う長い時間をかけて原稿を作ったり、練習を行ったりしました。日本語で考えを深めていくことが一番大変で、原稿の作成や発音の練習をするのにいろいろな先生方のお力添えがありました。そのおかげで乗り越えることができました。今まで英語は文字や音声、ただの言語の一つとしかみていなかったけれどジェスチャーや表情が日本語以上に重要であることを感じました。それらを今後の英語の学習に活かしていきたいと思います。」

次に自分なりの英語の勉強法を聞いてきました。

「ユメタンなどの単語は確実に覚えるようにしていて、電車の中小声で言いながら覚えています。文法は模試にある長文の中から少しずつ慣れて覚えていっています。」

最後に冬休み、来年の目標を聞いてきました。

「何か一つのことではなくて色々なことに挑戦してそれを突き詰めていきたいです。あと、受験生になるので勉強の時間とか現実的なところも増やしていけるように自分らしく頑張っていきたいです。」

私達もこれから冬休みに入るので自分の苦手なところや得意なところを伸ばしていけるように勉強し、せっかくの長期休暇、勉強だけでなく様々なことに挑戦して楽しんでいきましょう！

体育祭無事開催！

11月11日。例年より2か月遅れたものの、体育祭が少しだけ肌寒いと感じる晴天のベストコンデションの中、無事に行われた。

一昨年の体育祭同様、グランドでの開催となった。マスク着用、綱引きなどの人数制限、玉入れの実施など新しい日常の中での開催であったが、みんな楽しそうにかつ真剣に行っていた。結果は以下のとおり。

今年初めて行われた玉入れの様子。

総合　1位　Eブロック
2位　Bブロック
3位　Aブロック
台風の目　1位Aブロック
大縄跳び　1位Dブロック
障害物競争1位
Eブロック
綱引き　1位Dブロック
玉入れ　1位Eブロック
対抗リレー1位
Eブロック

自学進取

◇ファシズムとは、世界史用語集（山川出版）によれば、第一次世界大戦後イタリアからヨーロッパ各国に広まった新しいタイプの政治運動・体制」とある。何だかよくわからないが、良からぬ意味ということは大方の人々は理解しているだろう。世界は今、民主主義より専制主義の国家／ファシズム国家の方が多いという。それはＡＩにより決めた方が正しい判断になると思う人の増加と比例するように思う。◇このほど堤未果『デジタル・ファシズム～日本の資産と主権が消える』』（ＮＨＫ出版新書）を読んだ。著者はこれまで『ルポ貧民大国アメリカ』や『政府は必ず嘘をつく』など鋭い分析で現代社会の問題をついてきた。それだけに著者がＮＨＫ出版からの上記本を出版したのには驚いた。それほどデジタル社会の暗黒面は深いのもしれない。特に第3部にある「教育が狙われる」という内容は恐怖だ。コロナ禍によりただでさえオンライン化が進む現在、ますます教育のデジタル化が進むことは免れないだろう。「教師は全国で1教科ごとに一人いればいい」や「13億人のＡＩ教師がいれば生身の先生はいらなくなる?」というのは絵空事とは言えない。「新しいタイプの体制」日も近いかもしれない。◇教育のデジタル化の何が必要で、何を失ってはいけないのか見極める必要があるだろう。（顧）

修学旅行報告！

～旅程～

待ちに待った三泊四日の修学旅行。今年は、岐阜・富山・石川・長野にお邪魔し、それぞれの特産物や風景を思い出に刻んできた。

今回は特に思い出に残った、輪島の朝市とキリコ会館についてご紹介しようと思う。

世界遺産白川郷（都留高HPより）

◇一日目
飛騨高山藩初代藩主・金森長近の地である岐阜県高山市内を自由散策
世界遺産である白川郷を自由散策
◇二日目
コース別 バス研修
（筆者は輪島・珠洲コースを選択）
◇三日目
班別タクシー研修
◇四日目
約１４００年の歴史を誇る善光寺参り
各クラスごと長野県内を散策

『輪島の朝市』

新鮮な魚や干物、輪島塗りなどたくさんの特産品が売っており、どれも買いたくなるものばかりの商品が並ぶ、輪島の朝市。１０００年以上の歴史を持っており、日本三大朝市の一つとされている。各露店には、名前が書かれた札が吊りさがっており、ふらふら歩いていると、干物を売っているおばあちゃんから「寄ってくだぇ？（能登弁）安くしてあげるよ！」と声を掛けられる。このような地元の方とのコミュニケーションもとても新鮮味溢れるものであり、朝市の魅力の一つではないだろうか。また、輪島塗りのアクセサリーなどを売っているお店の方が「最近はコロナでお客さんが全くいなくて。でも、こうやって修学旅行に来れるだけでも良いね。」と仰っていたことが強く印象に残った。

輪島の朝市の様子

『お買い物もお得！』輪島の朝市は

私の大好物であり、朝市でお目当ての商品だった海苔の佃煮。一つ550円（税込み）であったのが、朝市ではなんと、驚異の二つで500円（税込み）。輪島の方々はサービス精神旺盛。まとめて買ったり、お値段の交渉をしたりすると安くなるかもしれない。ぜひ一度は、輪島の朝市へ！

『キリコ会館』

日本遺産に認定された、江戸時代から続く能登の「キリコ祭り」について知っている人はどのくらいいるだろうか。7月～10月の間、各地の氏子達が、風流灯籠「キリコ」を担ぎだし、町内を練り回る行事である。特に七尾市の能登島向田の火祭は日本三大火祭りの一つに数えられている。キリコには「送り火」という大事な役目があり、あるお寺では墓地のキリコ全てに蝋燭の灯を点し、鉢と銅鑼を鳴らしながら読経し、精霊を送り出しているという。キリコ会館には、歴代のキリコが飾られており、祭囃子が流れる館内では、お祭りの雰囲気を感じることができる。このような石川独特の文化である「キリコ」に触れることができ、新たな学びとなった。

この四日間を通して、中々行く機会がない北陸へと行けたことは良い経験となった。コロナ禍という制約された状況の中でも、修学旅行を実施してくれた先生方、ならびに旅館の方々や行く先々で出会った人々に、心より感謝を申し上げたい。

お茶会開催

11月8日に茶道部のお茶会が行われた。本来は芸文祭で他校とお茶会をする予定だったがコロナウイルスの影響で中止となり、その代わりとして校内で行われた。お茶会には部員に招待された生徒や先生方が集まり、お茶と季節のお菓子を楽しんだ。参加した杉本諒司先生は「厳かな雰囲気の中で非常に美味しいお菓子もお茶を楽しむことができました。」と笑顔で話した。また茶道部部長の伊藤花純さんは「茶道では和の心を体感することができます。また作法がゆったりとしているので一つひとつの動作が綺麗になると思います。細かいところにも注意しなければならないので、気を配る力が身につき将来にも役立つはずです。茶道部は２年生が５人しかいないため廃部の危機にあります。基本的には週に１回の部活です。先生も優しく、美味しいお茶とお菓子がある茶道部にぜひ入ってください！」と話した。普段は感じられない和の心を感じるのも良いのではないでしょうか。

お茶会の様子（本校茶室）

歳末助け合い募金活動

12月15日朝7時より8時に大月駅にて歳末助け合い募金活動が行われた。これは都留高生徒会およびボランティア同好会の生徒10名と大月ロータリークラブの方々と合同で毎年行われているものだ。

今年も通勤や通学で大月駅を利用している方々から貴重な募金を多数いただいた。今後はこの浄財をどのように活用するのか検討しながら大月市に寄付をする予定である。

大月駅前での募金活動の様子

今年を振り返って

２０２１年を振り返ると、色々な事がありました。

昨年に引き続き新型コロナウイルスが世界中に蔓延し、多くの人を苦しめ、自由が奪われたと思います。１月には東京都と埼玉、千葉、神奈川３県を対象に新型コロナウイルスに関する緊急事態宣言を発出するなど、コロナウイルスの勢いが止まることはありませんでした。そんな中、東京２０２０オリンピックが、７月23日に、無事、開催されました。新型コロナウイルスによる私たちの不安は、全力でスポーツをする選手たちに心を救われ、これからの未来への期待へと変わっていきました。

新型コロナウイルスの勢いは私たちの生活にも影響を及ぼしました。文化祭や体育祭では、例年とは全く違う形の開催となり、規模も縮小されました。しかし、生徒会の方々を中心に、心をひとつにして、全校で同じ方向を向き学校行事に全力で取り組めたと思います。新型コロナウイルスに振り回される１年でしたが、その中で、気づけたこともあります。それは仲間とのコミュニケーションの大切さです。今年は分散登校があったり、外出自粛要請があったりなど、今までと比べて圧倒的に一人の時間が増えました。久しぶりに学校に行き、仲間の笑顔を見ると自然と笑顔になり、嫌なことも忘れてしまいます。仲間と会えることがこんなにも嬉しく、私の生活を何十倍も楽しくしてくれていたという事を、しっかりと感じることが出来ました。

「今年を振り返る」と聞くと、コロナウイルスばかりに目が行き、どちらかと言うと暗い１年だったように思えてしまいます。しかし、東京オリンピックを通して元気と未来への期待を持たせてくれた選手、私の生活を笑顔でいっぱいにしてくれる仲間、その仲間に会えるのが『当たり前ではない』という事、など、どんなに小さなことでも、こんなにも幸せな事だったのか、と気づかせてくれる１年だったのではないでしょうか。